



「誰一人取り残さない」社会の実現に向けた 企業とNPOのパートナーシップ

2023年12月6日

認定特定非営利活動法人 日本NPOセンター

事務局長 吉田建治 (kyoshida@jnpoc.ne.jp)



日本NPOセンターは民間非営利セクターに関するインフラストラクチャー・オーガニゼーション（基盤的組織）として、NPOの社会的基盤の強化を図り、市民社会づくりの共同責任者としての企業や行政との新しいパートナーシップの確立をめざします。

設立：1996年11月22日

法人認証：1999年5月31日

税制優遇の認定：2015年12月10日

理事19名、有給職員16名、正会員683、準会員176

www.jnpoc.ne.jp



ご入会お待ちしております！



例えばこんなことをしています

経団連社会貢献アンケート調査（2020）
 パートナーシップ事例で取り上げていただいた事例

<https://www.keidanren.or.jp/policy/2020/078.html>

掲載箇所	会社名	プログラム名
P9	27（株）エヌ・ティ・ティ・データ	STO創出プロジェクト
P28	89 S O M P Oホールディングス（株）	SAVE JAPANプロジェクト
P34	108（株）大和証券グループ本社	大和証券フェニックスジャパン・プログラム
P35	110武田薬品工業（株）	日本を元気に・復興支援
P38	120（株）電通	伝えるコツ
P40	124東京海上日動火災保険（株）	Green Gift地球元気プログラム



気になっていること1

全体的に

SDGsの影響が強く出ている

SDGsの目標年である

2030年以降の社会貢献活動は
どうなるんでしょう。



気になっていること2

「誰1人取り残さない」なんて
そんなに簡単に言えるのか問題



誰一人取り残さない

採算ライン

誰かが何とかしてくれたらありがたい

ではないですよ

だから



企業とNPOが連携して
取り組みをすることがだいじ



採算ライン

企業やソーシャルビジネスの領域

NPOの領域

という単純な分け方もしっくりこない



そもそも「課題」は複雑に絡み合っている



企業行動憲章から読み解くNPOとの連携への期待

社会課題への
理解を深める

イノベーションを
起こす

事業を共同で実施
する／代行する

消費者に
働きかける

地域との接点を
作る

従業員個人だけでなく、従業員有志グループ(ERG)を金銭面でサポート
※就業時間中の活動許可を含む

プログラムのタイプ	実施主体		企業	従業員
	単独で実施	企業	従業員	
企業の自主プログラム マテリアリティに対応したプログラムで企業価値向上も期待	単独で実施	自社のみで企画・運営	従業員のみで企画・運営	
	NPOから支援を得て実施	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前にアドバイスを得る 2. 運営を委託する 3. 事後評価を得る 		
NPOが実施中のプログラム	<p>ヒト・モノ・カネ・ノウハウ等、多様なアプローチで支援</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. プロボノで支援 2. ボランティアで支援 3. 寄付で支援 	
NPOの組織基盤強化プログラム 長期目線の社会価値向上を期待	<ol style="list-style-type: none"> 1. 財政基盤 2. 人材基盤 3. IT基盤 4. コミュニケーション基盤 			

- ・株主と
- ・お客様と
- ・事業パートナーと

図表 8-3 NPO・NGO との協働プログラム：多様なアプローチ



持続可能な社会に向けた方策を
いち市民として一緒に考えたい

すぐに答えが出ない
簡単にインパクトもでない



日本NPOセンターの協働の定義

「異種・異質の組織」が、
「共通の社会的な目的」を果たすために、
「それぞれのリソース（資源や特性）」を持ち寄り、
「対等の立場」で「協力して共に働く」こと

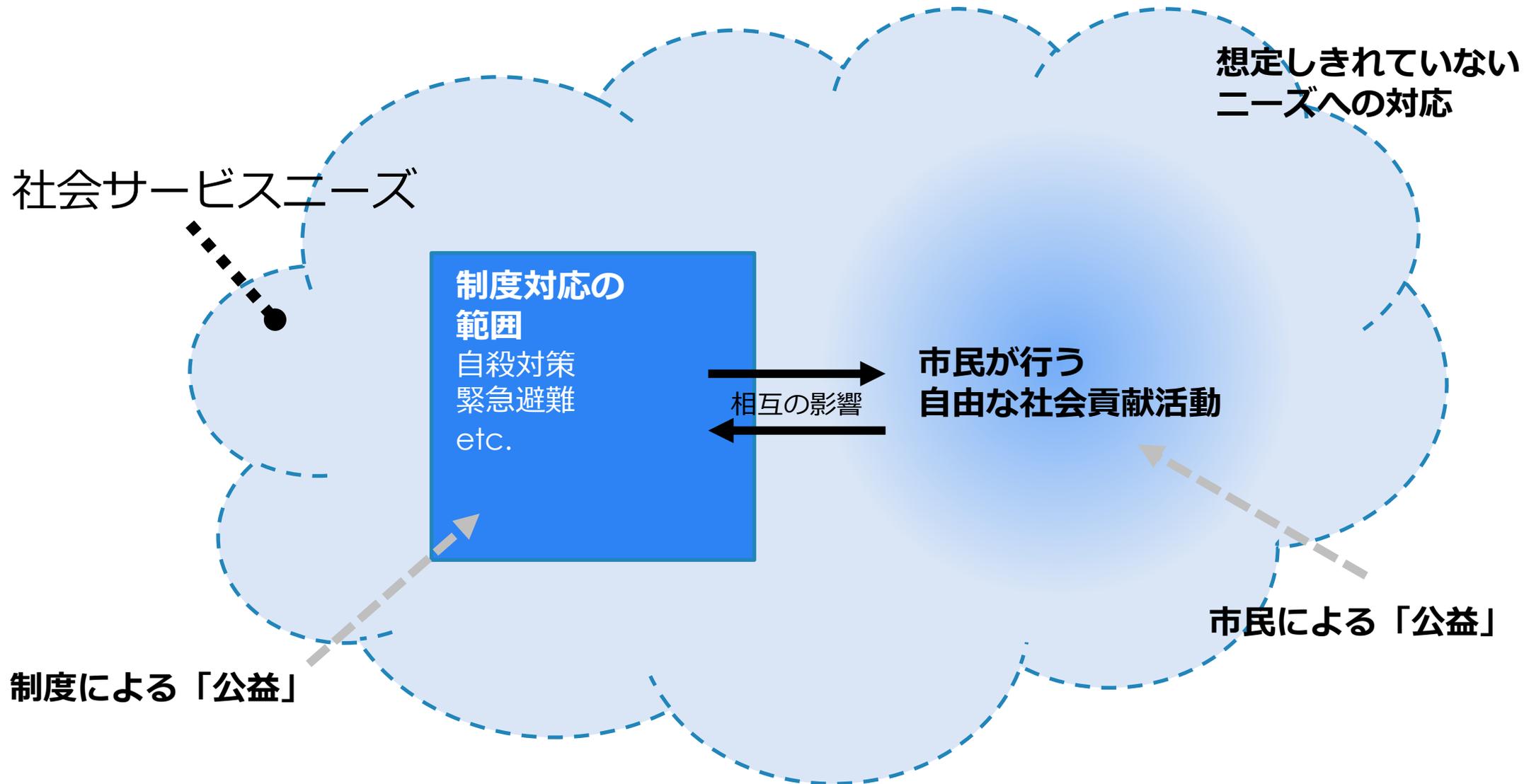


特定非営利活動促進法 第一条

この法律は、特定非営利活動を行う団体に法人格を付与並びに運営組織及び事業活動が適正であって公益の増進に資する特定非営利活動法人の認定に係る制度を設けること等により、

**ボランティア活動をはじめとする
市民が行う自由な社会貢献活動としての
特定非営利活動の健全な発展を促進し、
もって公益の増進に寄与することを
目的とする。**

政府・制度による公益活動と、 民間による公益活動



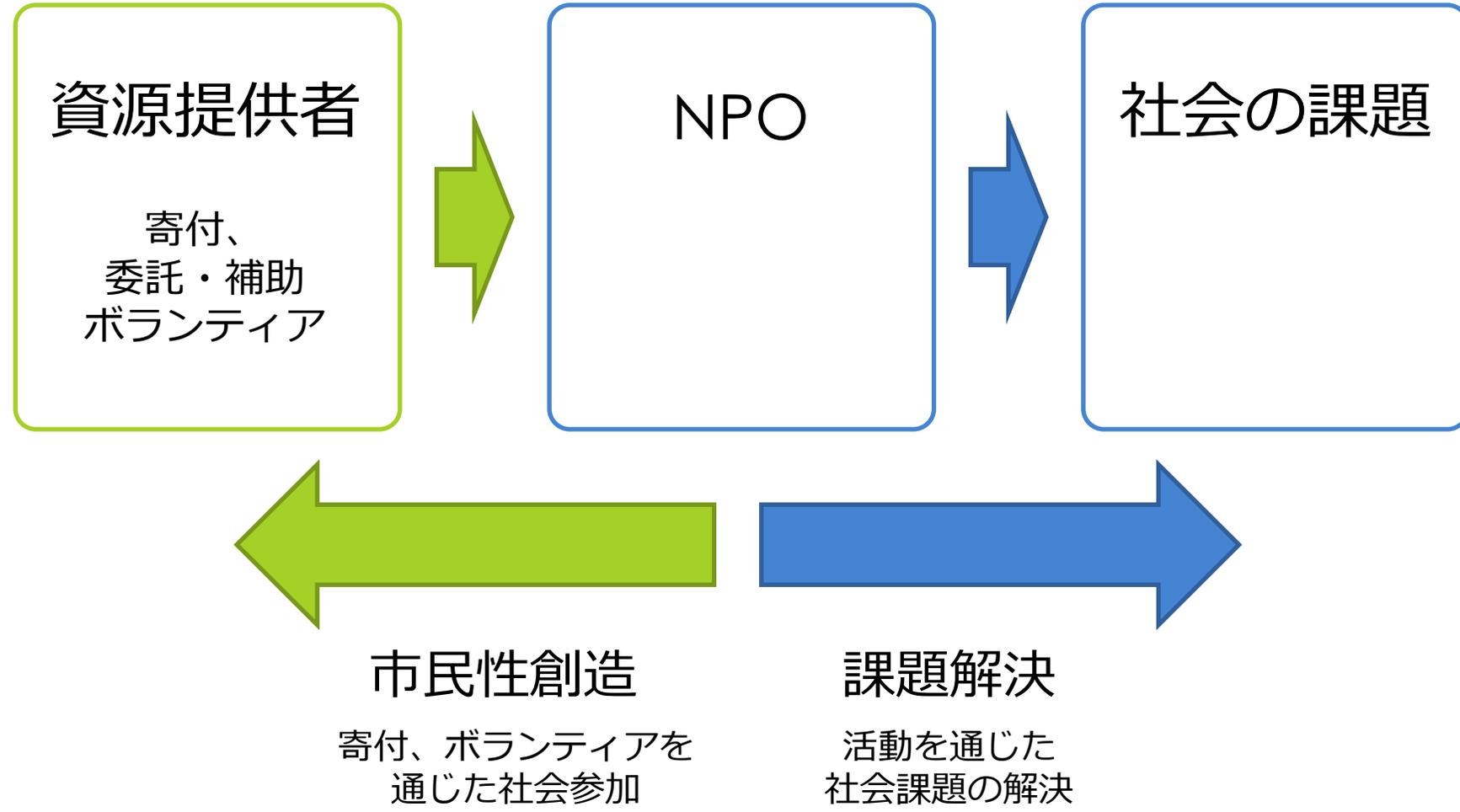


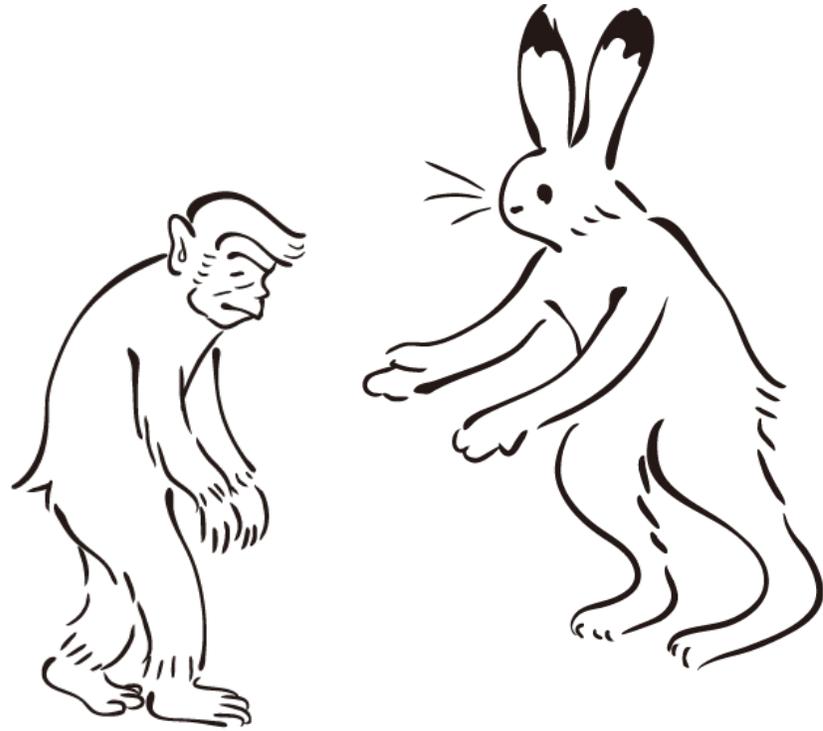
「自発性」と「多様性」

というボランティアの価値を力に社会に働きかける

「参加」と「協力」

が重要な意味を持つ





向き合い、支援する



ともに、取り組む

「地域から問題を奪わない」
青少年就労支援ネットワーク静岡 津富宏さん

「カウンター越しの“カウンター”パートナーではなく
課題を共に考え共に解決するパートナー」

SEIN 宝楽陸寛さん



「子どものための児童館とNPOの協働事業」

(通称：NPOだんどこプロジェクト)

2010年～2019年 住友生命社会福祉事業団助成

<http://npo-dondoko.net/>



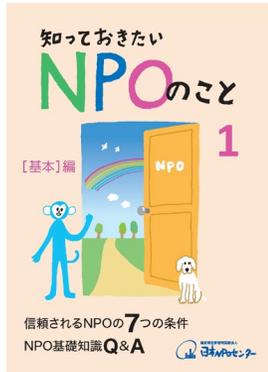


「どんどこらしい」協働事業 (=思いもかけない広がりを見せた事業) の特徴

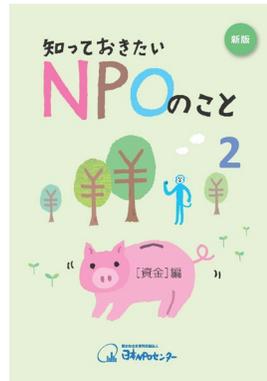
- ▶ 信頼関係
- ▶ 多様なステイクホルダーの参加
- ▶ 目的意識
- ▶ 互いの専門性
- ▶ フラットな議論、資源の持ち寄り
- ▶ プロセスの共有と主体的な参画
- ▶ 自らの変化

ご参考

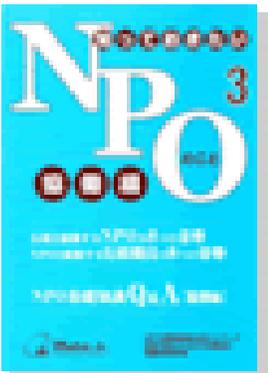
知っておきたいNPOのことシリーズ



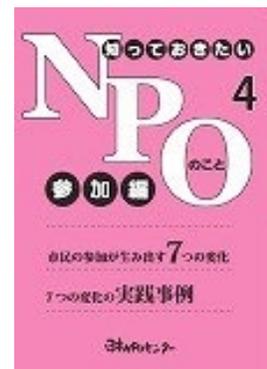
基本編



資金編



協働編



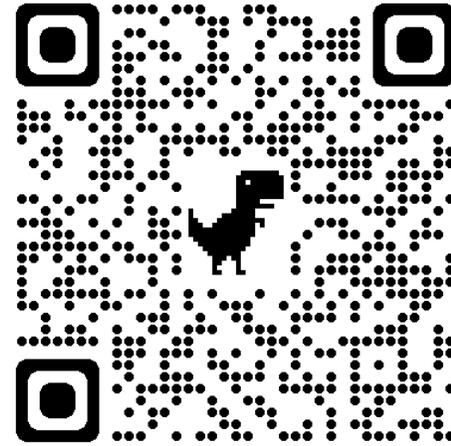
参加編

くらし×〇〇 つなぎの手帖



専門性ある NPO を地域につなぎ、こまりごとの解消とあわせて地域づくりの取り組みに伴走する「つなぎ手」。これこそわたしたち NPO 支援センターの新たな役割であり、地域での出番と考え、そんなすてきなつなぎ手がもっといろいろな場面で増えたらという願いを込めて作りました。

ご注文は www.jnpoc.ne.jp/books



ご入会お待ちしております！

特定非営利活動法人日本NPOセンター
東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル245
TEL: 03-3510-0855